

首書
繪入

世界都路

填地利亞洲

七

柳田文庫
文庫11
A1837
7



世界地圖卷二

四

澳大利亞全圖

文庫 11
A/837
7

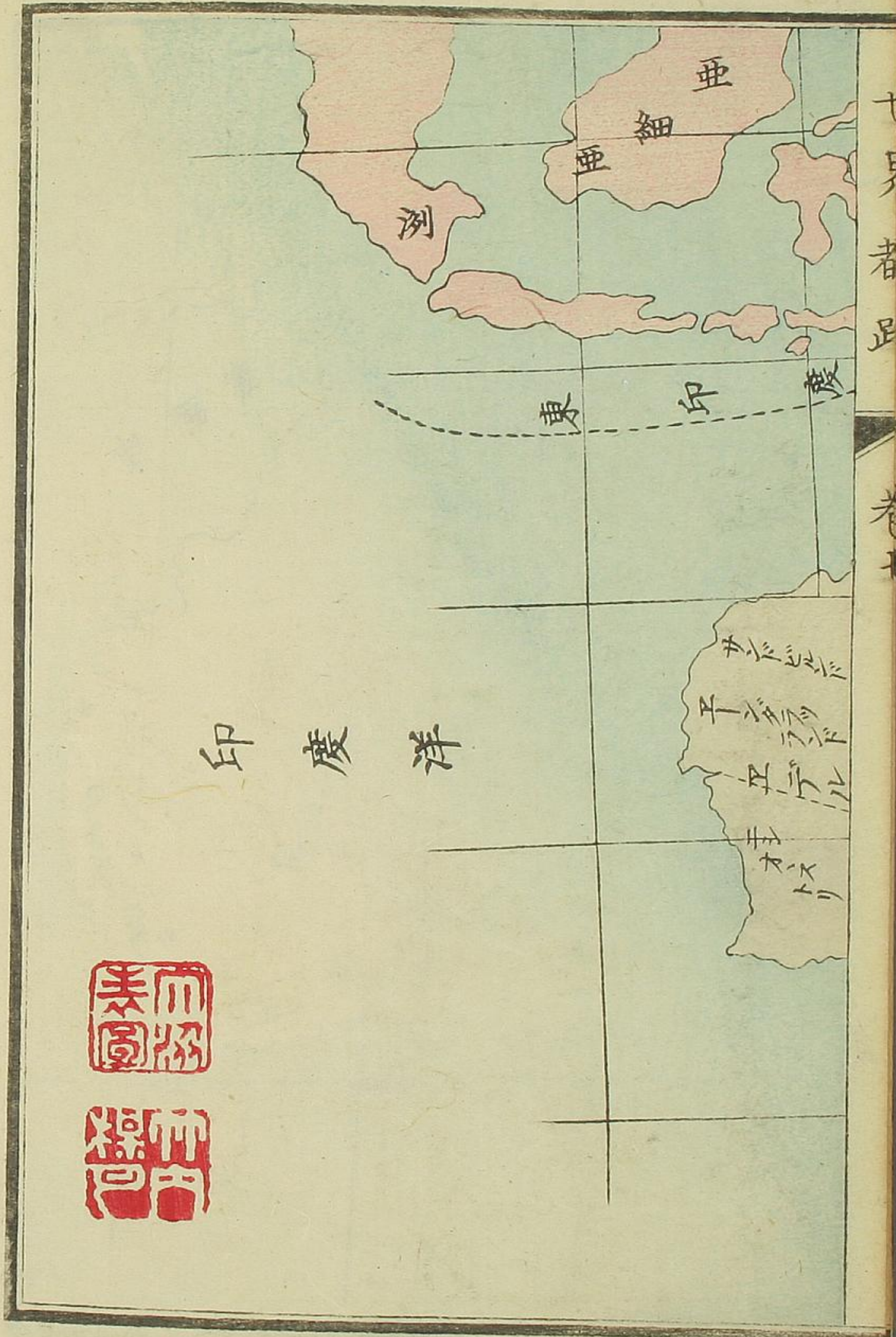
柳田泉文庫

48-7744



東南大洋海島
 澳大利亞の事
 ○亞細亞洲我日本
 横濱より北亞米利
 かのサンフランシ
 スコシアを達する太
 平海の道程凡二十
 五百里餘あり世界
 第一の大洋あり本
 文小謂る三維斯の

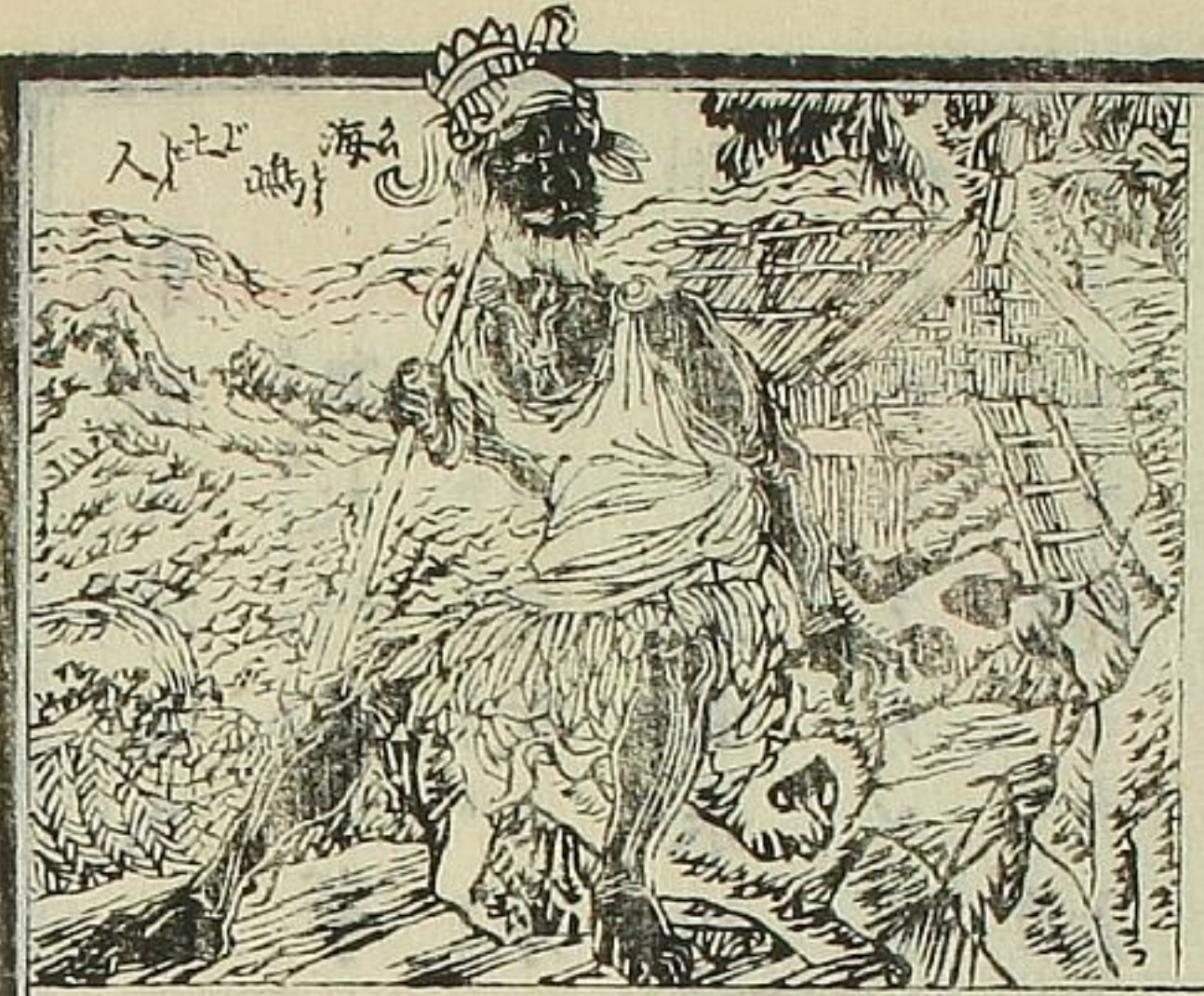
東南大洋海島
 澳大利亞の事
 附 左平海諸島
 南島の亞墨士利
 西の方亞
 細亞地方より考



世界者記
 卷五

古事類聚
 卷五
 一〇一

鳴國ハ亜細亞と亜
米利加との中途ハ
少し亜米利加
の方へ近き地あり



まず水程二千
五百餘里。船路を
る者大太平洋へ
浪恬しく水は
面瀬くたおらるる

一ハ阿歪希と名く
今より九十餘年前
英吉利の船將カビ
タンロツクと云人
初て此嶋と見出せ
り嶋小玉ありて其
港とホルルと名
く西洋諸国の人爰
ゆ到りて交易を近
來米利堅人を備ひ

友ふく西洋人
東洋の大平海を
稱えり。此中
程は獨りあり。
ニ維斯の島あり。

政事向と託ね各
 國との條約も國王
 の格式もて取結び
 野々小學問所と建
 追々開化も趣くと
 ぞ土人の皆黒色小
 見苦く大抵跣足
 裸あつ者多く住家
 の床もあき孤屋掛
 あり土地熱帯も位

人橋心嶋を八箇の
 中阿正希嶋也
 一の嶋志のり王
 あり教あるは出熱
 地は場所ありら



ともども割合よく
 の凌ぎよく産物か
 ども少ふけと出
 来り由あり

去れは酷まに暑か
 くと産物多く交易
 之華も也波の巴
 那耳羅を井と
 港は名に著記

古事下各

卷七

○澳大利亞洲の西
 細亞の東南に屬し
 巴布亞島の南に在
 り本は嶋と稱し
 後其地歐羅巴
 少し狭くして大抵
 同位ありが更
 洲と稱す初め荷
 蘭人此地を見出し
 と澳大利亞と名づ

亞里利加人を殺
 つ見苦しくぬ政
 事。とて年々其の
 國ぐと侮むる
 結ぶ條宛り他の



悔むるをさうせざる
 え。善く習ふる人
 の智を人をむく
 町ありむ此地を西
 度より大東洋

け又新荷蘭と称す
 紀元一千五百三
 十一年西班牙王
 其臣墨瓦蘭と遣
 へして亞墨利加
 の南より再び
 西に駛り新地と
 尋ねし其地
 教月しを忽ち
 大地と見る其地

此島を水也
 有る早も
 亞細亞海より東
 南に地球の上の
 南なる世を名



地火

荒て人の迹あり
 夜中入りて火燐
 出飛乱る名づけ
 了火地ラフユルと

了澳大利亞細亞
 此稱るを此海を
 約多をあるまを
 早も六大海小
 有る了ん初めを

云ふ又檢出たる
 人の名と以て墨
 瓦蠟尼加と云ふ
 西班牙人此火地
 の開き難きと思
 ひて去まり後百
 十三年と經て荷
 蘭人此地に到り
 海路の新地と設
 けたるあり

校まき嶺と名の思ひ
 過しが近き以地
 理分りて并に
 なる勿儀の白人
 徳ふよりと五洲の



其後二十一年と經
 て英吉利人蘭人と
 逐拂ひて其地を開
 かんとして欲し先罪人

次ふ加へるも此洲
 亞細亞東より南
 子房一南海を
 大西海の中ふあり
 約歐洲を以て南

と此処小流し且本
 国の貧き民を徒し
 閑墾を専らとそ
 地の赤道の南に在
 り時候炎燥く海濱
 平地多く山の高さ
 者三十丈小過む河
 少く樹木荒草繁茂
 り鳥獸の形状別の
 地と異り土人黒色

分ち其五分
 當るゆゑ此
 阿らぬ一大地新
 和名は舊き名
 英吉利領とある

小して髪と根乱し
 裸體をして跣足
 る者多し草の根山
 果と食ひ住居と樹



黒人酒酔

めく其本國此
 人種をる植
 其母聖法功
 子ありて
 波もや

の下小結ひ酒と一
 飲バ即ち酔ひ泥の
 中不倒と臥せこと
 猪の轉び一如く男
 の女と役ふこと畜
 の若一怒りハ輒く
 之と殺と英人の流
 寓者海濱の濕土小
 麥と粟とと種蒔ま
 草肥茂り羊と牧ひ

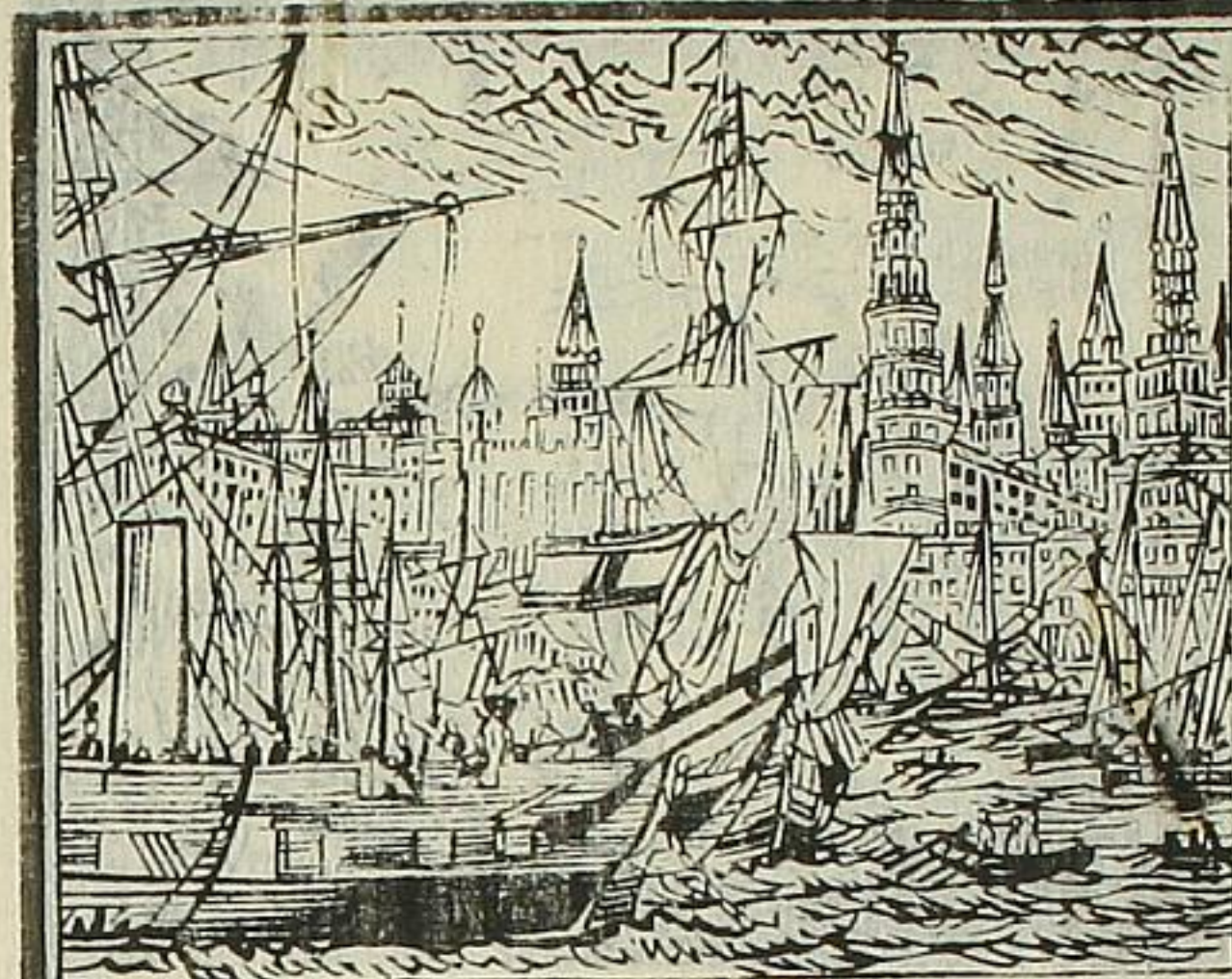
生如ふる茶店生如
 茶小増く月行
 中より蔓延て工匠
 耕植お牧の業少る
 更事事歛ず



て其毛と織物とを
 居民十萬ふ足らむ
 して毎年運出を羊
 毛の値二百余萬兩

物産多きをのこる
 山を鑿ちて金
 を堀り大利ふ富の
 管轄を英吉利領
 の新世界か茶人見

ありと云ふ百物赤
だ備へらさむ日
用の需の皆外國
より従と東境の海



出まを初めより英軍
拓れ持の目と二百
解るは年の数歴
し太古結面影を
寫まはま土の人種を

口小府と建と悉尼
と云ふ居民二萬余
鯨獵船時々泊り
交易頗る繁盛あり
流徒の莠民酒と飲
博小沈り放蕩者
多し又其境は大南
海小濱して英人新
小人と従し彼処此
処小聚りて住居を

亞非利加人
も似く面熱牙
黒く唇厚く鼻
凹く髪いちぐ
赤裸頭結上と腰の

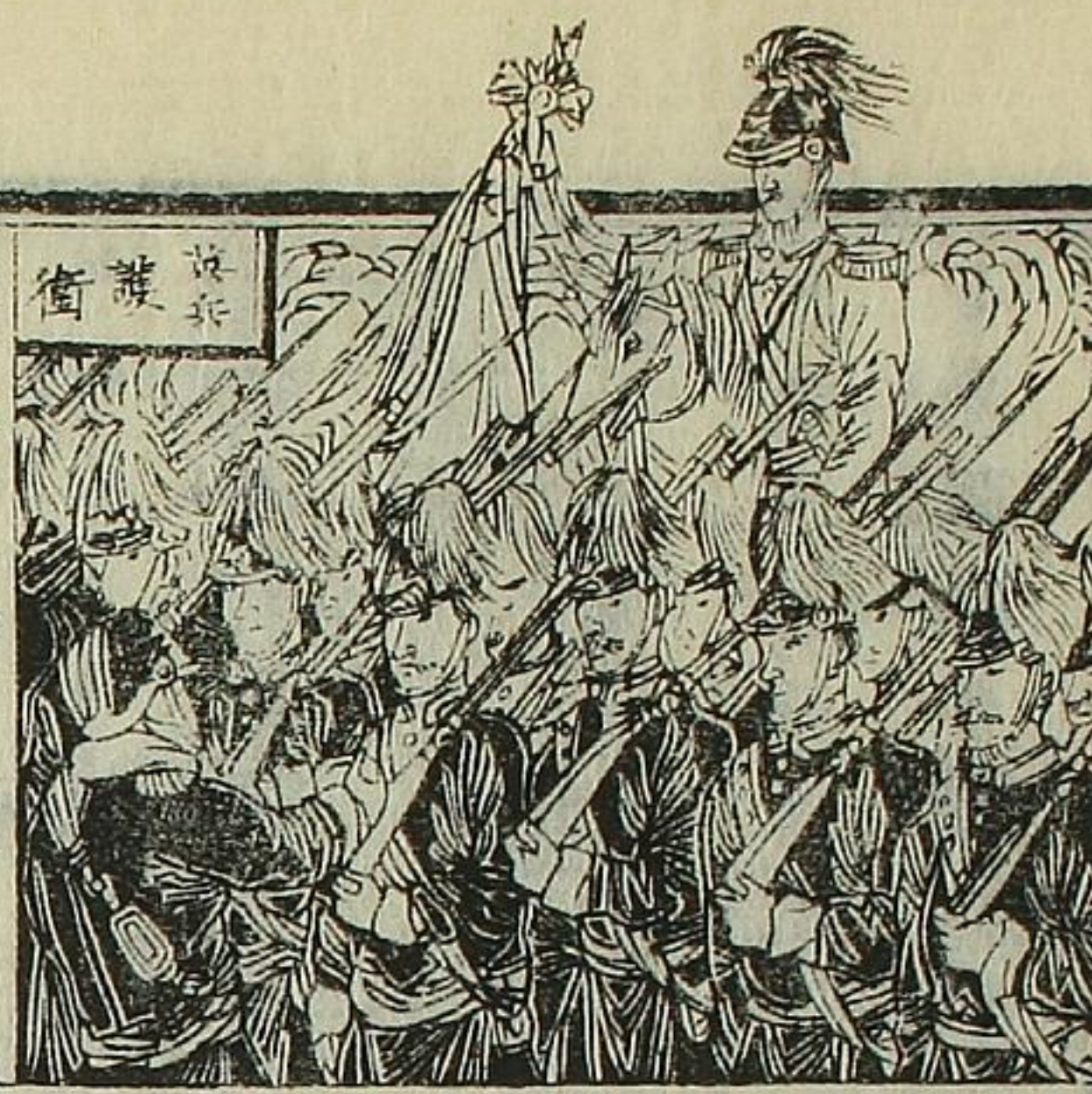
る者あり西境も又
一地と開く江河の
濱小在り北境ハ赤



間布あひのぬのを纏まとひつ時とき
やあぶら油あぶらを以もつて
子この中うちを抹あぶる可べ矣し
まちるちるちひありえ来き
性せい蠢ちん思して

道みち近ちかく天てん気き酷くしく
熱あつく多おほく海うみ菜なと産え
と英えい人じん陸りく小せう兵へいとく
ととりて外がい冠かんと防ぼう々
の守まもりとを總そうと澳あく
太たい利り亞あ一いつ土ど英えい人じん四し
境きょう小せう耕かうし収しゆり所しよ
僅わずか小せう海うみ濱はまの丘かみ土ど小せう
て百ひゃくの一いつ二にと過とぎ
を其その腹はら地ちハ樹じゆ木ぼく草そう

禮らい儀ぎ文ぶん学がく未ま知ちら
をを教きょうの道みちえ何なん者もの
ををそそむむここととを見み
をを多たすす獸けものを獵かりつ
魚うをを捕とる山この果こを



叢深く茂り昧くし
測知るべからむ
風土山川の形勢
又見る不由

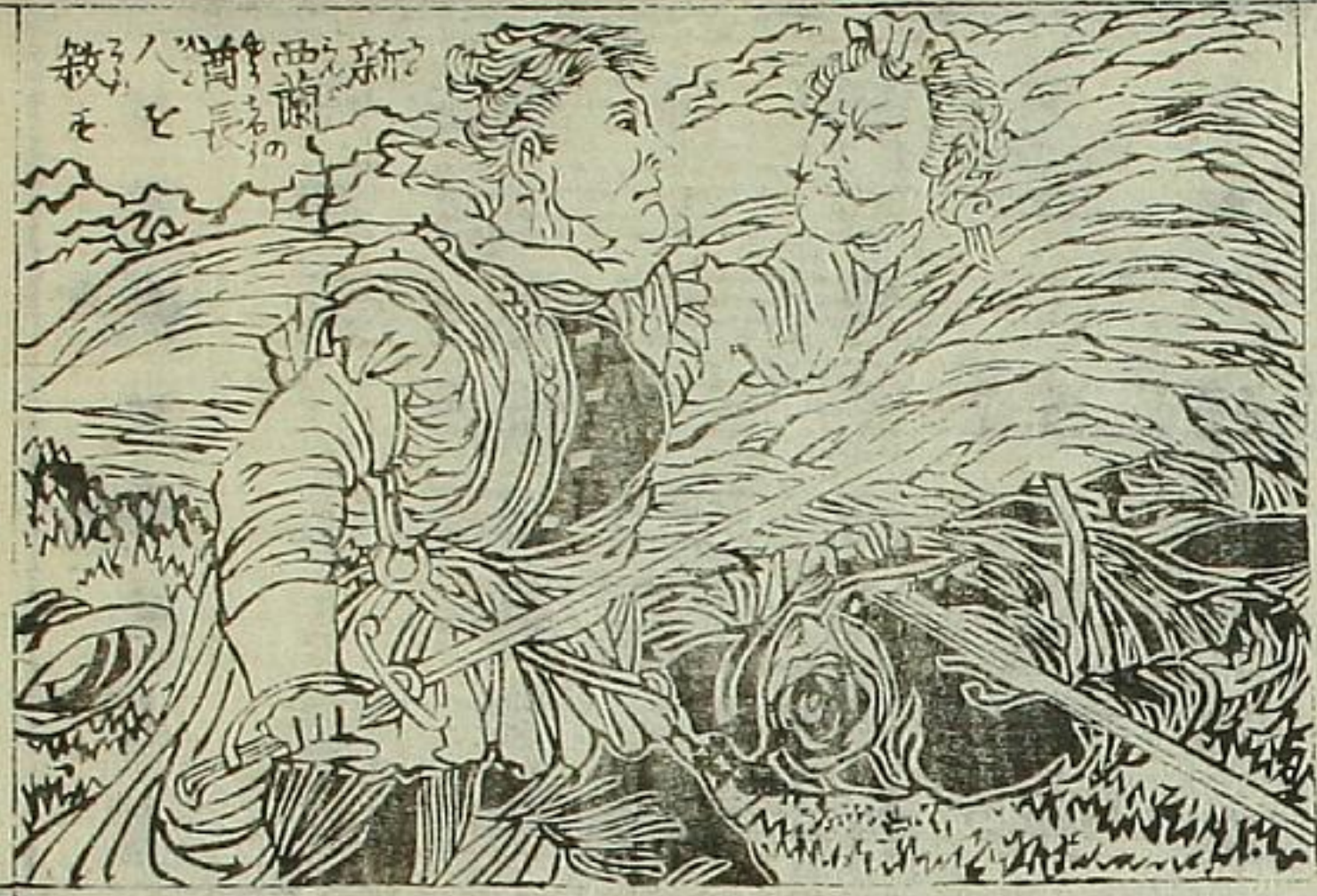
の根肉類種
食と物と
英人土地を
者四境を分て
部

○班地曼蘭島ハ澳
大利亞東南の隅
在り土肥へ五穀薯
芋蔬菜皆種植宜し
英人開墾已ハ大半
小カよび居民農と
務り外の鯨と獵
り業とも港多く
交易頗る盛んあり
○楸日倫敦西嶋一

東南の地を澳
大利亞新南威力斯
ヤと稱す身英
本國に飛人を配
流の地と追ふ

名新西蘭班地曼蘭
 の東小在り幅員之
 小倍也高山あり頂
 き小年中雪と積つ
 其雪水解けて分流
 とあり土人色黒く
 醜くけとど人事と
 知ろ
 往年此土人凶頑
 小して殺すと好

衆る氏の業ひえ
 盛る港は悉尾と
 人口大約三万餘
 城福と壓底雷歎
 夏小南都のまうる



と仇と獲りて其
 肉と食ひ其頭と
 藏りて猛き小誇

場とあらはに軍
 道踏く通る内
 地の形勢もや
 志る相対何を侍
 了相え進め東

り武と示せしと云ふ

英人近來其地と買ひ人口と徒しと聞壑と専ら小し西教を以て其土人を化せ土人健ゆして力あり鯨漁の船時々到りて土人を僱ひ水手とせ然る数人

南の隅よさうれさめる
おるん法法より生
むるひの漢不班地
曼崎又そはあ
右在り中を二新



あ過ぎど多き則ハ
變と生を嘗て鯨船
あり土人数十と僱

離き西極日倫敦
そはあ、人を食
ひ黒面は鬼不等
しき悪候も英吉利
人の教化より近以

以て海中と駛り
 小土人忽ち群り起
 りを盡く船の者と
 殺し其肉と炙りて
 啖ひしと云ふ
 ○東南洋番嶋甚と
 多し西洋人其形ち
 の似たる小就き意
 り小隨うして名づ
 けり

今の子を初きしるるを
 白きを分つ大陽の
 光をみるも天が下
 今ぞ文明盛典の
 巻も再化る好機

校 學



○新危尼 ○新耳蘭
 ○新撒羅門 ○子ウ
 ヘブリーデン 伯希等

今圓球地球家を學
 中ふ女をきく瞬々
 持たし肩小萬の玉を
 也之路を學びひ社
 道ふ入る法も心づを

の名あり或ひは首
 長あり部落と成り
 或ハ野番散居する
 者皆黒色矮身ハシ
 獸と等し偶々他
 國の人岸ハ登ルガ
 牙と磨撰へて血と
 吮ひてと食ふとぞ
 頭書大全

出づる歌枕石あり
 ら如く如名所の古き
 を温ね新しきあり
 記しぬめや海
 世界都路 大尾

明治五年壬申仲夏

回春樓藏

著述

假名垣魯文

浄書

澤菱潭

首書

平田思成

畫工

惺々曉齋

彫工

村橋昌三郎

東京本石町二丁目角

萬笈閣 江島喜兵衛發兌

東京書肆

萬笈閣

枕屋喜兵衛製本書目

繪入 世界都路

假名垣魯文著

全六冊

地球上海六洲各國の事情都府の景状名所舊跡等と挙て我
國従来の都路紀行の成ひて終るる狀載雅俗を混交し童蒙婦
女を以て萬國の形勢を知らむに能くせんことを要し首頭
書に繡像を加へて一大新書あり

地學圖解

鷲巢清麻譯

近刻

繪入 全三冊

此書の地球の總論と始りて各國地形の特色氣候の遷速都
鄙の盛衰物産の多寡動植の種類に至る迄絲毫も漏らさるる
坐して万里の遠邦と有同しを國体の可否を察し机上に惑星
ヲ載テ開化の通と論ずるに足る實事方今必用

出版目錄

萬笈閣

洋文民房

開知新編 橋爪貫一譯 繪圖入 全八冊

同 簿用 榻 快入 二冊

文明開化ト稱スルハ何ダヤ先開知ノ一端ヲモテ緒トス格物ノ開
知ハ人道ノ大基本ニシテ理學ニアリ此書ハ童蒙ヲシテ開知ノ要ヲ
示ス但シ讀易スク諭シ安キヲ專ラトシ地球上ノ事體普ク纂録
シテ童兒ノ知識ヲ開カントスルノ急務ヲ報知セリ

西洋水利新說 若山儀一譯 圖入 全二冊

同 附錄 全一冊

此書ハ農業集成及ビ諸而哲ノ原書ヲ參譯スル者ニシテ水利ノ原
由水濕ノ度ヲ檢察シ土地ノ高低ニヨリテ水生ノ涌出スルヲ理シ或ハ
濕地山地雜和トシ土質粘地金石鑛穴等ノ水ヲ疏通スルノ術ヲ示シス
溝渠ノ種類及池水器具等ヲ説タル農家要務ノ寶書ナリ

西洋 航海新說 中井櫻川著 全二冊

此書ハ生シテ大洋中ニ在ガ如ク星纏風土氣候ノ變ヨリ政事民俗
器械物産等ニ至ルマデ海外各國ノ事情ニ於テ大漏リズ且彼地ヲ
目撃スルガ如ク實ニ開知ノ最大奇書ナリ

東洋史略 岡田輔年著 全二冊

此書東洋新世界北亞米利加合衆國富強繁盛ノ今日ニ至ル事業後ヲ具部中
風土物産學才貿易政體軍備全整ヲ悉ク原書中ヨリ採卒キ其記文
術畧ニ過タリト雖摘要タル大隈目更ニ條節數卷ノ類書ニ勝ハルヲ遠

農家必讀 大藏永常著 全三冊

此書近世農學家大藏老人多年經驗耕作ノ實地ニ涉リ田甫倍春
精粗ヲ撰ビ豊凶ニ因リテ注意セシムルノ寶鑑タリ凡我國土ニ耕ス者先
此書ニ眼ヲ下テ以テ耕作ノ心ヲ展ハ其益一粒万倍ノ功ヲ奏セハモ又難カズト爲シ

洋文民房

山本目録

西國立志編

中村敬太郎譯

全十一冊

自由之理

中村敬太郎譯

全六冊

道理圖解

田中大助著

繪入

全三冊

窮理隱語

清原道彦著

全二冊

此書ハ手とりて窮理の問答もけり隱語とあり一画圖を加ふ訓蒙のため作りし親誦の要書あり

窮理智環

清原道彦著

全三冊

此の書ハ窮理の大畧を括論して圖を加へ日行草として大字の書一兒童の誦讀ハ勿論習字の助とあは書あり

化學京論

渡邊成太郎譯

繪圖入
地址

全三冊

通俗窮理の吐

全五冊

此書ハ手近き西洋窮理と平儀名繪ハありてよく又中法一カをく童蒙婦女子に分解安んずるの人が爲る著書一書あり

出版目録

三 高文閣藏

數學入門

橋爪貫一譯

全八冊

一ノ卷 加減乘除 ニノ卷 分數及小數 三ノ卷 比例法
四ノ卷 関平関立 五ノ卷 對數 近刻 六ノ卷 天算 近刻
七ノ卷 天算中近刻 ハノ卷 天算下近刻

此書ハ洋算ノ階梯ニシテ我國算ヲ解セサル者ト雖モ此書ニ
因リテ學ブトキハ其大略ヲ得ルニ至レリ曾テ國算ト彼我ノ區別
アルモ道ヲ得ル時ハ同一ナリ洋算ノ難易ハ此書ヲ披テ推知ス

改正 度量考摘要

橋爪貫一譯

全一冊

此書ハ我彼内外ノ度量ヲ比較シテ專ラ商法ノ便利ヲシム都テ度量
立積長短ノ比位ハ高個ノ急務タレバ讀スニハ有ベカラズ

英語箋

石橋政方先生譯

全二冊

此書崎陽石橋先生英人ト對話多年經驗日要急務ノ語箋ニシテ語
學ノ初心必讀大場有用ノ物ト云ベシ

全改正增補

使靜庵主人校訂

全二冊

此書ハ石橋先生ノ先トシテ大江ガ初學ニ便シラ今度爲民ノ增補
伏テ猶有益ノ書取リ目巻尾ニ萬國ノ地名箋及ヒ詞早々區別表ヲ附
ハ化屍ノ活世ノ童子輩分陰モ坐右ヲ歎ベカラズ普ク買ニ見タマナリ

和譯 英吉利小字典

名小辭書
青木輔清譯

近刻

全一冊

此書其實ハ洋土歴史中ノ關係セル英語ニ添ヘテ和譯セシ小字書ナリ
抑歴史文ノ綴字微意アルガ故ニ生徒是ニ惱メリ故ニ此書ニ因リテ彼
史ヲ學バ教師傍ラ去ルニ同ジトセン

横文字早指南

此ノ模範ハ我童蒙等ノ俗ニ清書草紙ト号クル者如ク綴本中江洋字ヲ白字ニ刻シ真草行ヲ分テリ初學洋字ヲ習ハント爲ニ此模本ノ上ニ白紙ヲ覆ヒテ模寫セバ其筆法ヲ得ルモ又速ナリ

英字三體國盡

稿爪貫一著

全一冊

名頭

全

苗字盡

全

此三書ハ我國ノ地名苗字等ヲ洋字ニ當テ片假名ヲ添ヘ我彼通信ノ一助トス内外郵便必用ノ者ニシテ異人取引ノ商家貯エマシハ有ルベカラズ

英學教授

全一冊

此ノ書僅ニ三卷ニ過ザルノ小冊ト雖ドモ贅ヲ省キ樞要タルヲ譯セバ初學ノ階梯是ニ因リテ足レリト爲ベシ

英語綴字書

一名スペルリング

全一冊

同ニ編 三編 近刻

此ノ書ハ英學ノ學師ウエブストル著述ニシテ文字ノ綴方音節ノ變化ヲ知シムルノ書ナリ

英文典字類

格賢勃斯氏 西先生原本

全二冊

英學捷經

阿部米象譯

近刻

全一冊

英吉利 獨逸 和玉篇

西村周次郎譯
中村順一郎譯

近刻

全一冊

英獨兩學ハ今日ノ急務ニシテ學バズニハ有ベカラズ此書兩國ノ綴字ニ和譯ヲ添工部ヲ十三門ニ別チタル三體ノ節用ナリ

普語箋

一名獨逸語箋
中村雄吉譯

全二冊

於今獨逸學日耳曼列國ヨリ西洋諸國ニ行ハレ殆ド英學ニ併立セントス此書ハ普國急務ノ語學ニ和訓ヲ施シ初學專問ノ模範トセリ生徒常ニ傍ラテ退ケザルノ要書ト云ベシ

獨逸單語編

春風社中著

全一冊

獨逸單語篇和解

中村順一郎譯

全二冊

此和解書ハ獨逸單語編ノ原書ヲ基本トシ是ニ押譯ヲ加ヘタル初學階梯ノ導ビキナリ師ニ屬キ學ブニ易キヲ旨トセシム

同 會話集成

西村周次郎譯
中村順一郎譯

全二冊

獨逸語學對客ノ專ラ是トスルノ會話ヲ集メ悉ク和譯ヲ加エ語學ヲ要トスル人ノ為ニ物セルノ書是ニ比スルハナシ

同 階梯

中村雄吉譯

近刻 全一冊

歐洲ノリイドルハ彼國訓蒙ノ緒ニシテ方今我國ノ婦童專問トスル所ナリ則チ此書真草ノ綴字ニ畫圖ヲ添タル初學ノ早業ナリ

獨逸文典字類

春風社中譯

全一冊

同 文典直譯

カトリ氏原本
中村雄吉譯

全二冊

同 熟語集

大熊春吉譯
宮口祐平譯

全一冊

和譯獨逸字典

明石志津廣譯
明石雄七譯
河村省三郎譯

全一冊

西洋料理通

假名垣魯文編輯

全二冊

此書ハ横濱在留の英國コックの手記にして原本世小稀あり卷中
彼土の食料製法の原因と挙煮汁と三等小區別而肉類野菜
に至るまで塩梅加減と經驗より西洋善煮家必讀の珍書あり

萬國 西洋膝栗毛

假名垣魯文著

中平十五編輯 全四冊

同 拾遺

近刻

此釋史の三世の弥次郎北ハ等ハ横濱在任の事情と發端と
通商の附屬英佛の蒸氣飛脚小乗組而小航海の途中支那
印度の地小例の滑稽と盡そ突語専ら同今の飛行と穿そを
新奇妙案の戲作あり

西洋器會

假名垣魯文著

近刻 全五冊

此小説ハ故由亭馬琴が質屋ノ庫トヘル読本の聲ニ倣ハ横濱の押原
歐羅巴諸州の器械衣類異形の物集會りて人語と幾一各国野上と語
休事情と演と以趣向ト編章戯文と以綴と雖確實樞要と注意一童蒙
興化進歩とシテ方今風の滑稽釋史あり看客發見の舟を待て突貫と布

河童胡瓜遺

假名垣魯文著

全二冊

福澤先生の窮理圖解の假名垣魯文の被標目を假して部の趣向に当世の事情を穿らるる抱腹絶倒の滑稽書あり然る其實は教諭の一端に出

窮理外傳

風来山人遺稿
假名垣魯文披閱

合本 全一冊

此書の風来先生の遺稿ありて往時の舊作と云ふものの筆頭九十餘年の現今の叛せを其事戯中の戯じて又實中實中添ふるを秘せん

知新館藏板目錄

理學初步

翻刻

前後

三冊

英和字典

知新館社文同譯

全一冊

此書ハ英人ニユツル氏ノ字典ノホトシ傍ウエブストル氏ノ大字典ニ就キ發聲ノ調符ヲ表シ勢ヲ應用ニ切ナルノ語ヲ譯出シ且翻譯ノ後事スルノ人ヲシテ搜尋ニ便シラシメシガ爲メ英和字典ノ譯字ヲ採用シ大ニ進歩ノ裨益ヲ得セシムカ之他對譯字書中比スレバ原語譯字數最モ多シト雖モ字体精密ナルヲ以テ諸數ノ繁ク育キ製本ノ倍裁西洋ニ依テ以テ提携ノ勞ナク實ニ對譯書中ノ巨璧ト云ヘシ

出板目錄

西洋易知錄

河津編輯助祐之先生譯述

各二冊

從第一快至四快 出板

五快ヨリハ快マデ 近刻

此書ハ西洋各國歴代ノ治亂興廢ヲ記シ傍政体ノ得失ヲ述ベテ物ニ
彼ノ事情ニ通知セント欲スル人ハ必ス座右ニ可備ノ珍書ナリ

英國史略

河津編輯助祐之先生譯述

初編 全二冊

作樂戸癡鶯先生譯述

編 全二冊

同

此書ハ英國歴代ノ事情ノ述タル物ニテ河津祐之先生先ニ西洋易知錄ノ
譯ニ下モ其原書ニ英國ノ事情ヲ載セラバ曾テチヤニアルハドワイニ
著書ニ就要領ヲ譯出シ其遺漏ヲ拾補スルニ易知錄ト並ニ見ルベキ書ナリ

西俗景覽

河津編輯助祐之先生譯述

全一冊

此書ハ西洋各國ノ人情風俗身体衣服書通談話往來
會食婚禮葬禮等ノ事ヲ一覽ノ下ニ通知スル
ニ珍書ナリ

海外政談

近刻

近刻

寺漏生國史

迄刻



東京書肆

本石町二丁目

江島喜兵衛梓

大日本

書肆

尾州名古屋本町八丁目	尾州名古屋本町三丁目	尾州名古屋本町十一丁目	尾州名古屋本町七丁目	尾州阿崎連尺町	遠州濱松連尺町	駿州静岡江川町	駿州静岡七間町	駿州沼津上土町	信州善光寺	下野宇都宮	上総佐原町
菱屋平兵衛	菱屋藤兵衛	萬屋東平	水樂屋東四郎	原惣五郎	伊勢屋清七	水屋浦吉	須原屋善藏	水屋喜太郎	小辨屋喜太郎	京物屋伊石衛門	止文堂利兵衛

大日本

書肆

西京三條通、塚町西

西京寺町通、松原上

西京三條通東洞院上

西京四條通、寺町上

大坂心齋橋南壹町目

大坂心齋橋通安堂寺町

大坂心齋橋筋北久太郎町

大坂心齋橋筋安土町南

大坂心齋橋筋博愛町

大坂心齋橋筋北室寺町

大坂心齋橋筋備後町

大坂心齋橋筋南室寺町

出雲寺文治郎

勝村治右衛門

村上勘兵衛

田中屋治兵衛

敦賀屋九兵衛

秋田屋太右衛門

河内屋喜兵衛

河内屋和

河内屋茂兵衛

河内屋源七郎

近江屋平助

伊丹屋善兵衛

大日本

書肆

東京日本橋通一丁目

東京日本橋通二丁目

東京日本橋通三丁目

東京芝神明前

東京芝神明前

東京芝神明前

東京室町二丁目

東京大傳馬町一丁目

東京横山町一丁目

東京横山町三丁目

東京浅草草野町二丁目

東京水石町二丁目

須原屋茂兵衛

山城屋佐兵衛

小林新兵衛

岡田屋嘉七

和泉屋吉兵衛

和泉屋市兵衛

紀伊國屋源兵衛

三家村佐平

出雲寺萬治郎

和泉屋金石衛門

須原屋伊八

梶屋喜兵衛

010190534060

